



### 現代の殉教者・コルベ神父(上)

（長崎巡礼 13）

長崎は坂道が多い。総じて坂道は道幅が狭い。私の車の助手席に乗って案内するイエズス会二十六聖人修道院のクラークス神父の

言われるままに狭い坂道に登る。着いた所は聖マキシミリアノ・コルベ神父ゆかりの「聖母の騎士修道院」。一人だったら

ここまで来れる自信はない。とにかく、かなりの高台にあり、その一角に「聖コルベ記念館」がある。

マキシミリアノ・コルベ神父は一八九四年にポーランドに生まれる。彼は自己のすべてを汚れなき聖母に奉獻

十三歳の時にニエボカラノフ修道院を設立した。一九三〇年から六年間、日本で活動するが、そのことは次回に触れ、今回は「現代の殉教者」と呼ばれることになった事件から紹介する。

コルベ神父が日本からポーランドに帰国した一九三九年、第二次世界大戦が勃発。ポーランドはナチス・ドイツに占領される。

人類の歴史の中で最も忌まわしい事件の一つ、ナチス・ドイツによる大量殺りく。アウシュビッツ収容所はポーランド人政治犯を収容するため一九四〇年に設立され、やがて虐殺のための施設となり、一九四五年の大戦終結までにここで犠牲になった人は百万人を超えた。

コルベ神父もナチスのゲシュタポに政治犯として逮捕され、アウシュビッツに送られる。収容所の待遇は残酷を極め、時々、脱走事件が起こる。それに

対してナチスはみせしめに一人逃げることに残りのグループから十人を餓死刑にした。

コルベ神父が収容所に送られて三カ月後に脱走事件が起き、十人が餓死刑の宣告を受けた。その中の一人、ポーランド人軍曹は「俺には妻子がいる」とうめいた。

それを聞いたコルベ神父は「私はカトリックの司祭で妻子はいません。私があなたの身代わりになってあげましょう」と自ら進み出たという。

こうしてコルベ神父は男性の身代わりとなり、餓死刑で地下室に入れられた。なかなか死ななかつたので、最後は注射で薬殺された。

他人の身代わりになり、四十七歳の若さで殉教したコルベ神父。聖書の言葉「友のため

に生命を捧げる以上の愛はない」を実行したのである。コルベ神父は一九八二年、ヨハネ・パウロ二世によって

列聖された。

コルベ神父の身代わりで生き延びたガヨヴィニチエクさん

（右の絵がコルベ神父）



聖コルベ記念館で私の目を奪ったのは、コルベ神父の身代わりによって生き延びたガヨヴィニチエクさんという男性の写真である。ガヨヴィニチエクさんは大戦後、アウシュビッツから解放され、妻と二人の息子が待つポーランドに帰ったが、二人の息子はソ連軍に殺されていたという。そして一九九五

年、九十三歳で神に召された。なお、記念館の写真はコルベ神父が創立した長崎・聖母の騎士修道会の小崎登明（おさきとうめい）修道士がポーランドに出掛けて撮ったもの。今回訪ねた時は留守でお会いできなかったが、後日、電話で話を聞いた。もう一度、小崎修道士を訪ねる予定である。



愛の殉教者とも言われるコルベ神父

九二七年、三